

## 令和5年8月 吉野町教育委員会定例会議 会議録

日時：令和5年8月31日（木）午後13時30分～ 場所：町中央公民館2F第1研修室

出席者：吉野町教育委員会 教育長 教育長職務代理者 委員3名

事務局 4名

### 1. 開会挨拶

### 2. 審議案件

議第1号 後援名義の申請について

#### ① 名称 「YSC グラウンド・ゴルフ大会文容堂カップ復活！」【資料1】

申請者 特定非営利活動法人吉野スポーツクラブ 理事長 松原 政則  
質疑応答・異議なく、全会一致で承認。

#### ② 名称 第48回吉野町民文化祭～『再開』～平和の祈り 文化をつむぐ～ 【資料2】

申請者 吉野町文化協会 会長 榊原重雄  
質疑応答・異議なく、全会一致で承認。

議第2号 吉野町立認定こども園の具体的なあり方について 【資料3】

委員：具体的な方策の中の保護者のアンケートの中に、バスのことや保育教諭のスキルの向上、吉野らしさ（和太鼓や森と遊ぼうなど）そのことも視野に入れた方策が伺える。「おわりに」のところで、もう少し時間をかけて1園化に向かいたい保護者の思いや、少人数から大人数のところに移ることへの不安も十分の理解しながら・・・というところが、この文章で一番大事にすべきところと捉えた。概ね理解して頂いているが、1園化に向かう中でも少数の意見を常に念頭において、気持ちを十分に理解したうえで慎重に進めていくことが大事である。

委員：前回と今回を比較してみると、前は1園化を目的としてやっているイメージがあった。1園に向けて動いていくのは変わらないが、何故こうするのかということがしっかりと述べられていて、1園ありきだけではなく、こんなことをやりたい、こんなことを目標として、子ども達にはこのように育てほしいと。目標の先の最後に1園がベストな方法であるという思いが通っていることが分かった。

事務局：こども園の具体的なあり方について、この方向で進むことをご了承して頂く、ということよろしいでしょうか。

### 3. 報告案件

報第1号 教育総務課事務事業の進捗状況について・・・【資料4】事務局説明

質疑応答なし。

報第2号 生涯学習課事務事業の進捗状況について・・・【資料5】事務局説明

教育長：新しい取り組みを展開して頂いている。いずれも子どもや社会的弱者といわれる方々を支える視点が見られる物が多かった。或いは、生涯学習につながる内容が多かった。朝日新聞の記事が載った日に北海道や九州の知り合いから連絡があった。

委員：朝日新聞の記事を見て益田エリッテさんから連絡があった。デジタル版を見て欲し

いとメッセージをもらった。・・・メッセージの紹介・・・益田さん自身も自分がかかわったことで存在価値を感じ、日本に来てよかったと思われたようだ。

委員：吉野ゲートウェイという組織について、よく知らないが民間の組織なのですね。先日事務局の方が山口で「コーヒーを飲む会」を開催された。清水さんという方です。今までとは違ったゲートウェイという組織ができてから、こういうことが動き出している。今までは流通科学大学の学生達が来るくらいであったが、定期的に来てくれている。今までの吉野町の文化や教育活動と違った面を作り出してくれていると実感している。その辺を教えてください。

事務局：民間の運営である。目指しているのは地域交流の場、一階のフロアは地域に開放している。どのようにビジネスに繋げていくのかという視点はもっている。地域のビジネスをつかむためには、ゲートウェイの知名度を上げて、多くの人に足を運んでもらうイメージを戦略的にもっておられる。そこにゆるやかに繋がっているのは一つの地域教育の資産として魅力的である。居場所についても特にアナザーワンで午前中学習していた小学校6年生の子が午後のプログラムに来た時に、川を見ながらゆったりしたソファで自慢げに話していた。そういう場所であると子ども達が認識することによって保護者も・・・子どもは無料、大人はコーヒー代200円払う。人と人が繋がって、やがて一つのビジネスモデルが生まれていくような、学びの場から生業の場になっていく可能性をもったところなので、官民連携の話よりも、公民連携で民間が自立しているところに、緩やかに後ろから支えたり任せたり・・・今までにない形。スタッフは清水さんお一人。このプログラムをやっていく上ではスタッフの確保も必要になる。財務局もそうだし、ドローンの方も民間で繋がっている方達の話はおもしろい。学びの場を積極的に捕まえていくのも生涯学習課の新しい取り組みである。マンパワーに限りがあるので、1から10まで組み立てて実行していくのは大変だが、お互いに良いところを持ち寄って子ども達に還元していく。生涯学習なのかと問われたら曖昧だが、今年は試したところがある。民間の建物、民間が経営そこにかかかわりをもつのかというのは今までにない感覚。

教育長：吉野のような山村地域は保守的な雰囲気強い。そこ新しい人、文化・・・民間の人が入って来てくれたことによって波紋が広がっている。石を投げて池が活性化するというような印象をもっている。我々が積極的にかかわって、助けてもらったり助けたりというような関係があって、そこに人が足を運ぶことによって身近になっていく。生涯学習課でやっていただいていることは、その実践と喜んでいる。子ども達については、表にすると人数が少ないように感じるが、1年目だということと、人数が多ければよいというのでもない。学校で自分を出せない子が、ここでは自分を出せる子が集ってきている。と考えれば価値のある数字である。暖かい心で、子ども達を見守って、吉野町に入って来てくださった民間の方達と一緒に進んでいければと思う。この取り組みは大切に育てていきたい。

#### 4. その他事項

次回の日程日時：9月21日木曜日午後15時30分～場所：町中央公民館4F教育長室

#### 5. 閉会挨拶